

国際デザイン協議会 ～クリエイティブに世界をリードする～  
プレスリリース 2017年11月9日

## モントリオールデザイン宣言2017

2017年10月24日、カナダ・モントリオールで開催された第1回世界デザインサミット会議において、世界のデザイナー・建築家・都市計画家・ランドスケープアーキテクト等、国際的なデザインコミュニティの代表がモントリオールデザイン宣言に署名しました。

この宣言は、経済・社会・環境・文化の分野におけるグローバルな課題を達成する上でデザインが役立つ可能性を明確に示したものであり、専門家・教育者・政府に対する印象的な行動の呼びかけと、複数のプロジェクトの提案が含まれています。

デザインサミット会議は、学際的な会議と展示会が同時に行なわれた「世界デザインサミット」の一環として開催されました。署名式は、2017年10月24日、モントリオール国際会議場で執り行われ、3つの国連機関（ユネスコ、国連人間居住計画、国連環境計画）の臨席のもと、この宣言を共同で起草した14の国際組織とパートナー団体、加えて4つのデザイン関係団体が署名しました。

このモントリオールデザイン宣言の付属書には、これらの国際組織が代表する世界89か国600以上の専門家団体・大学・デザイン振興機関の名前が掲載されています。

モントリオールデザイン宣言は、すべての人々の利益のためにデザインの可能性を活用するグローバルな協働の始まりを告げる画期的なもので、次のフレーズで結ばれています。「すべての人は、優れたデザインが生み出す世界で生きる権利がある」

「ユネスコは、文化と創造性こそ「2030アジェンダ」と「ニュー・アーバン・アジェンダ」の実施に向けた推進力になると考えています」

——Jyoti Hosagrahar、国連教育科学文化機関（ユネスコ） 創造部門ディレクター

「この宣言は、2つの大きな成果を表すものです。1つは、多様な分野にまたがるデザイン界が世界初の共同声明を出したということ。こうしてデザイン界が1つにまとまったことが2つ目の成果を可能にしました。すなわち、1つになったデザイン界との協働をさまざまな国際機関が望んでいるということです。この2つの成果はすべてのデザイナーに影響してきます」

——David Grossman、国際デザイン協議会（ico-D） 会長（2015-2017年）

## 国際的な協働のプロセス

デザインサミット会議とモントリオールデザイン宣言は2010年から準備が始まり、世界デザインサミット組織委員会・国際デザイン協議会（ico-D）・国際住宅都市計画連合（IFHP）・国際造園家連盟（IFLA）の代表者で構成された運営委員会が発足したことで動きが加速しました。2017年にパリで2回のプレサミット会議が開催され、宣言を共同で起草し、提案するプロジェクトを検討するため、社会・文化・環境・経済分野で4つの作業部会が設置されました。

## デザインが人類の将来に不可欠なものであることを宣言

モントリオールデザイン宣言は、挑戦的な8つのテーマに分けてデザインの価値を定義しています。

01デザインは、革新と競争、成長と発展、効率性と繁栄を生み出す原動力となる。

02デザインは持続可能なソリューションの促進役を果たす。

03デザインは文化を表現する。

04デザインはテクノロジーに価値を与える。

05デザインは変化を円滑にする。

06デザインは都市を知性化する。

07デザインはレジリエンスとリスク管理を可能にする。

08デザインは発展を促す。

モントリオールデザイン宣言は、行動の呼びかけでもあります。一方では、政府・教育者・市民セクター・民間セクターに対し、デザインに関する啓発、デザイン・評価指標の開発、デザイン方針の策定、デザインに関わる各種標準の確立、デザイン教育の強化などを通じてデザインと関わり、デザインを活用し、デザインの力を認識することを求めています。もう一方で、デザイナー自身が一歩踏み込んでリーダーシップを発揮し、エンドユーザーの代表であることを認識すること、レスポンスなデザイン・責任あるデザイン・注意深いデザインを実践し、グローバルな課題におけるデザインの役割を認めることを求めています。

「何が起ころうとも、とりあえず私たちはこの宣言に署名したのです。署名したということは、私たち自身がこの宣言を守っていくことにコミットしたということです。善き思いは行動として示さなければなりません」

——Albert Dubler、国際建築家連合（UIA）元会長

この宣言は、将来にわたって取り組みを続けていく意思の表明として、20のプロジェクトを提案しており、その中には、以下のような共同プロジェクトが含まれています。デザインの影響を評価するための測定基準の開発、デザインの価値を伝えるための包括的な共通言語の開発、生活水準・健康・交通網の向上に向けた各種プロジェクト、低所得層へのデザインの提供、そしてこれらを実現するための政府との継続的かつ充実した対話と協力の仕組みづくり、などです。またこれらのプロジェクトにおいては、青少年のためのデザイン教育モデルの構築、生涯教育の促進、デザインが持続可能性とレジリエンスを向上させる事例の提示、デザイナーコミュニティを支援するための認可・認定のリソース・ツール・規格の構築、そしてこの宣言に賛同の意を示すことによってこの宣言の趣旨と行動の呼びかけを広めるプロジェクトなども提案されています。

サミットデザイン会議の参加者たちは、主に持続可能性と社会的平等に焦点を当てた成長と開発に対する新しいアプローチの必要性について活発な議論を交わしました。

「モントリオールデザイン宣言がやっと発表されました。『すべての人々は、優れたデザインが生み出す世界で生きる権利がある』のです！ デザインは実際、共創の形をとることがよくあります。それはまさしく、この宣言の起草の過程でも採られたプロセスでした。さまざまな共創、対面セッション、オンラインでの作業部会などを通して、多くの国際組織がユニークな方法で協働し、この世界初の会議の実現にこぎつけたのです。世の中がますます複雑で不安定で不確実になっていくなか、私たちはデザイナーらしいやり方で未来について考え、行動するため、一丸となってこの宣言を準備しました。デザインや共創によって、私たちが生きるこの地球の変革が可能になります。モントリオールデザイン宣言は、その動きを具現化したものです。ぜひ参加し、共有し、広めていってください。そして、デザインをしましょ」

——Alok Nandi、インタラクティブデザイン協会（IxDA） 副会長

「グローバルな協力に向けた重要なステップであり、社会的な課題に対して影響力を行使するためのチームの誕生です。しかし、デザインセクター内でもっとお互いの言語を学ぶ必要があることは明らかです。建築家とサービスデザイナーは多くの共通点を持っていますが、使っている語彙は全然違います」

——Bart Ahsmann、ヨーロッパデザイン協会（BEDA） 会長

モントリオールデザイン宣言は、社会・文化・環境・経済分野における問題解決のツールとしてデザインを位置づけており、宣言の署名者たちは、未来に向けてより良い世界を創るために政府やビジネス界と協力していくことを強く希望しています。

モントリオールデザイン宣言の署名式は2017年10月24日に、モントリオール国際会議場において執り行なわれました。